

見知らぬ他人に手紙を送り、夜、その人の家の窓越しに出会い、言葉を交わさず、写真に撮る「Stranger」というプロジェクト。家族や友人、知人といった関係性の外にいる自分とは全く関係を持たない他人に、他人としての距離感を保ったまま対面することが目的だった。

ここで窓は、撮る側と撮られる側の力関係がある程度、逆転する装置として機能し、実際、戸外に三脚を立てている私の方が周囲の環境に左右された。こ

窓をめぐるアートと建築の旅

窓展

出展作家が語る制作秘話

②横溝静

の日は近所の子どもたちが「僕の写真を撮って」と、まどわりついできたが、相手が窓の向こうに立つと、私のただならぬ緊張を感じたのか、子どもたちは退散した。

結露で曇ったガラスの向こう

の相手と向き合い、視線を交わす。窓越しの出会いには、まるで虚構のようだったが、私と子どもたちとのやりとりで気付いていたのか、少し案じるようなまなざしに、その人の確かな存在を感じた。

他人との確かな「出会い」



「Stranger No.5」1998年
タイプCプリント 個人蔵

◆「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」（東京新聞共催）は来年2月2日まで、東京国立近代美術館（東京・竹橋）で開催中。1月13日

を除く月曜、年末年始（12月28日～1月1日）、1月14日休館。観覧料など問い合わせはハローダイヤル＝☎03（5777）8600。